

地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会 SCAR 小委員会
(第24期・第2回) 議事要旨

1. 期日

令和2年9月10日(木) 10:30~11:30

2. 会場

ZOOM Meeting

3. 出席状況

出席者：原田尚美、杉山慎、石井守、小山内康人、道田豊、中村卓司、
榎本浩之、伊村智(委員長)、橋田元(幹事)

オブザーバー：野尻琢也(岸本紀子代理)、田中恵信(千葉剛輝代理)、
楠勝浩

4. 議題

(1) 前回議事要旨(案)の確認

(2) 経過報告

- ・ National representative：中村極地研所長(正代表)から Delegate meeting (代表者会議)については、オンライン会合による規定の整備に半年を要するため、重要な決定は2021年2月以降となる状況の説明があった。
- ・ Geosciences：野木委員から ISAES 2019 (XIII International Symposium on Antarctic Earth Sciences)などについての報告があった。
- ・ Life Sciences：伊村委員長から、オンラインによるグループとしての決定事項および、日本の研究者がメンバーとして参加している各 Group の活動の紹介があった。
- ・ Physical Sciences：中村委員から、日本の研究者がメンバーとして参加している各 Group の活動の紹介があった。
- ・ 杉山委員から FRISP (Forum for Research into Ice Shelf Processes)の研究集会の報告があった。
- ・ SCADM：活動報告を橋田幹事が紹介した

(3) SCAR 関連の動きについて

- ・ 伊村委員長から、代表者会議が開催されておらず、新しい動きを始める状況になく、数年前に取りざたされた Strategic Plan 2017-22 以降の計画や Horizon Scan の後継などに関する情報はないとの報告があった。

(4) 大型研究計画マスタープランについて

- ・ マスタープラン 2020 に極地研から提出した提案「極域科学の新展開：氷床変動に起因する海水準上昇予測のための拠点観測」が146件のうちのひとつとして採択されたことについて中村委員から紹介があった。

(5) 第25期に向けての意見交換

- ・ 24期の設置理由を引き継ぎ、25期にも本小委員会を設置して活動すること、伊村委員長に設置に向けた準備を主導してもらうことについて小委員会の同意を得た。
- ・ 南極観測実施機関である国土地理院、気象庁、海上保安庁から、24期同様オブザーバーとして参加頂くのがよい。
- ・ 学術的な議論をより深めるために、SCAR で積極的に活動している研究者の方々、例えば、若手、人文社会分野からの報告を組み込んでいく。
- ・ ダイバーシティを考慮した新メンバーの選考を目指す。
- ・ 国連 Decade of Ocean Science 2021-30 がいよいよ開始される。南極域(南大洋)に関して、国内でも学術会議や南極コミュニティでの連携を図っていく必要がある。
- ・ SCAR の国内 HP 設置が必要。